

## 各種ニーズ調査の調査項目とそのねらい

## 1. 住民アンケート

調査目的：住民の生活圏・交通圏、利用条件・利用意向、費用負担のあり方などの把握

項目案		回答方式	調査項目のねらい
問 1 ①	・性別 【1. 男性 2. 女性】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
②	・年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75歳以上】	選択	
③	・職業 【1. 会社員、公務員、会社役員等 2. 自営業（農業を含む） 3. パート・アルバイト 4. 専業主婦・主夫 5. 学生（専門学生を含む） 6. 無職 7. その他（_____）】	選択・記述	
④	・お住まいの地域 【1. 上之郷地区 2. 御嵩地区 3. 中地区 4. 伏見地区】	選択	
⑤	・自家用車（送迎を含む）の利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週に2～3回程度 3. 週に1回程度 4. 月に数回程度 5. ほとんど利用していない 6. 全く利用していない】	選択	
⑥	・自動車運転免許の有無と自動車の運転 【1. 運転している 2. 免許を持っているが、運転していない 3. 免許を持っていたが返納したため、運転していない 4. 免許を持っていない】	選択	
⑦	（※問1⑦で「1・2・3」と回答した方のうち、60歳以上の方のみ） ・運転免許を返納した（しようと思う）年齢 【1. 65歳頃 2. 70歳頃 3. 75歳頃 4. 80歳頃 5. 85歳頃 6. 90歳以上 7. 免許を返納するつもりはない ⇒問2へ】	選択	
⑧	（※問1⑦で「1・2・3」と回答した方のうち、60歳以上の方のみ） ・免許返納後に利用している（利用したい）移動手段 【1. 名鉄広見線 2. ふれあいバス（バス車両） 3. ふれあい予約バス（タクシー車両） 4. YAOバス 5. 可児市さつきバス 6. タクシー 7. 家族・知人などによる送迎 8. 自転車 9. 徒歩 10. その他（_____）】	選択 （全てor3つまで）	
問 2 ①	・普段の外出の目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院・お見舞い 4. アルバイト・パート 5. 買物 6. 飲食・娯楽 7. 観光・レクリエーション 8. 習い事・趣味 9. 訪問（知人宅等） 10. その他（_____）】	選択・記述	日常的な生活交通圏域、交通行動の実態、地区別の交通特性（交通手段選択等）を把握する  （外出の頻度の順に3つの外出について回答）
②	・普段の外出の目的地 【1. 御嵩町内：施設名（_____） 2. 可児市：施設名（_____） 3. 八百津町：施設名（_____） 4. その他市町：（_____）市・町】	選択・記述	
③	・普段の外出の目的地への到着時刻 【午前・午後（_____）時ごろに到着】	記述	
④	・普段の外出の目的地からの出発時刻 【午前・午後（_____）時ごろに出発】	記述	
⑤	・普段の外出の頻度 【1. ほぼ毎日 2. 平日のみ 3. 休日のみ 4. 週に数日 5. 月に数日 6. 年に数日】	選択	
⑥	・普段の外出の移動手段 【1. 名鉄広見線 2. ふれあいバス（バス車両） 3. ふれあい予約バス（タクシー車両） 4. YAOバス 5. 可児市さつきバス 6. タクシー 7. 自家用車（自分で運転） 8. 自家用車（送迎） 9. 原付・バイク 10. 自転車 11. 徒歩 12. その他（_____）】	選択（全て） ・記述	

	項目案	回答方式	調査項目のねらい
問 3	<p>・御嵩町の公共交通について知っていること</p> <p>【1. 町内を名鉄広見線が走っていること 2. 町内をふれあいバス（バス車両）が走っていること 3. 町内をふれあい予約バス（タクシー車両）が走っていること 4. 町内をYAOバスが走っていること 5. 町内を可児市さつきバスが走っていること 6. 自宅近くのバス停の位置 7. 自宅近くのバス停の名前 8. 自宅近くのバス停のダイヤ 9. 自宅近くを走るバスの運行経路（ルート） 10. 自宅近くを走るバスの乗り方（運賃の払い方など） 11. 自宅近くを走るバスで行くことのできる施設 12. 公共交通のことについては何も知らない】</p>	選択（全て）	公共交通の認知度より利便性向上に向けた周知項目を検討する。
問 4	<p>・公共交通全体の満足度（「公共交通」とは、鉄道やバス、タクシーを指します）</p> <p>【1. 満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満】</p> <p>→「4・5」と回答した方のみ、具体的な不満内容を回答</p>	選択・記述	公共交通全体の満足度を把握し、地域公共交通網形成計画の目標基準値の参考とする。
問 5 ①	<p>・この1年間の名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バス、タクシーの利用頻度</p> <p>【1. ほぼ毎日 2. 週に数日程度 3. 月に数日程度 4. 年に数日程度 5. 利用していない】</p>	選択	<p>名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バス・タクシーそれぞれの利用状況及び非利用者が利用可能となる条件を把握する。</p> <p>地域公共交通網形成計画の目標の基準値の参考とする。</p>
②	<p>（※利用者（問5①で「1～4」と回答）のみ）</p> <p>・名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バス、タクシーの満足度</p> <p>【1. 満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満】</p>	選択	
③	<p>（※非利用者（問5①で「5」と回答）及び不満足向者（②で「4・5」と回答）のみ）</p> <p>・名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バス、タクシーの不満足や利用しない理由</p> <p>① 運行本数が少ない ② 利用したい時間帯に運行していない ③ 土日祝に運行していない ④ 自宅から駅・バス停、駅・バス停から目的地が遠い ⑤ 待合環境がよくない ⑥ ふれあい予約バスの予約方法がわからない ⑦ ふれあい予約バスの予約が面倒 ⑧ その他（_____）</p>	選択・記述 （3つまで）	
	<p>・条件が改善した場合の利用意向</p> <p>現在、利用している人 【1. 現在以上に利用する 2. 現在の利用と変わらない】</p> <p>現在、利用していない人 【1. 今後はぜひ利用したい 2. 今後は利用したい 3. 今後も利用しない】</p>	選択	
問 6	<p>・公共交通を使って行きたい施設</p> <p>【1. 御嵩町内：施設名（_____） 2. 可児市：施設名（_____） 3. 八百津町：施設名（_____） 4. その他市町：（_____）市・町】</p>	選択・記述 （3つまで）	住民の移動ニーズ（潜在需要）を把握する。
	<p>・その施設の利用頻度</p> <p>【1. ほぼ毎日 2. 平日のみ 3. 休日のみ 4. 週に1回程度 5. 月に数回程度】</p>	選択	
	<p>・その施設の滞在時間</p> <p>【1. 朝（～11時頃） 2. 昼（11～15時頃） 3. 夕（15時頃～）】</p>	選択	
	<p>・その施設へ行くために現在利用している交通手段</p> <p>【1. 名鉄広見線 2. ふれあいバス（バス車両） 3. ふれあい予約バス（タクシー車両） 4. YAOバス 5. 可児市さつきバス 6. タクシー 7. 自家用車（自分で運転） 8. 自家用車（送迎） 9. 原付・バイク 10. 自転車 11. 徒歩 12. 行くことができていない 13. その他（_____）】</p>	選択・記述	
問 7	<p>・御嵩町を訪れる人におすすめしたい施設</p> <p>【1. 施設名（_____） 2. 施設名（_____） 3. 施設名（_____）】</p>	記述（3つまで）	観光ルートとの調整、課題整理の参考とする。

	項目案	回答方式	調査項目のねらい
問 8	<p>・名鉄広見線、ふれあいバス、ふれあい予約バス、タクシーに期待する役割のうち、今後、サービスを維持・拡充していく際に重要な項目</p> <p>【1. 通勤・通学するための交通手段 2. 通院・買い物するための交通手段 3. 他の鉄道駅や広見線の駅へ行くための交通手段 4. 町外の施設へ行くための交通手段 5. 町外から来訪する方にとっての交通手段 6. 観光をするときの交通手段 7. 自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段 8. 普段は公共交通を利用していないが、いつでも利用できる安心感を与える役割 9. 存在自体が、まちの活性化や活力につながるという役割 10. 御嵩町をアピールする資源となる役割】</p>	選択 (1~3位を順位付け)	<p>名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バス・タクシーそれぞれが果たすべき役割を把握する。</p> <p>地域公共交通網形成計画に基づく推進事業を検討する素地とする。</p>
問 9 ①	<p>・名鉄広見線の収支は、年間2億円を超える赤字で推移していますが、地域にとって必要な社会インフラであることから、御嵩町が年間7,000万円の支援を行っています。また、利用者一人当たりふれあいバスは年間約1,170円、ふれあい予約バスは約1,020円の運行経費がかかっており、その内、町負担額はふれあいバス約1,080円、ふれあい予約バス約850円となっています。(平成30年度の町負担額は、ふれあいバス約1,620万円、ふれあい予約バス約760万円)この額は年々増加しており、今後も増え続けていく可能性があります。このことを踏まえて問9にご回答ください。</p> <p>・「運賃」や「税金での負担」の関係についての考え方</p> <p>【1. 運行本数の増加など、今以上の利便性を高めるため、町の負担額を増やすべき(税金の負担を増やして、サービスを向上させる) 2. 運行本数の増加など、利便性の向上は必要だが、利用者負担(運賃)の増加により対応すべき(利用者の負担を増やして、サービスを向上させる) 3. 現在の運行本数や運賃を維持するため、町の負担額は現状程度で良い(税金の負担は現状のまま、サービスも現状維持) 4. 運賃を上げたり、運行本数を減らしたり、サービス水準を落として町の負担額を減らすべき(税金の負担を減らして、サービスを低下させてもよい) 5. その他( )】</p>	選択・記述	<p>名鉄広見線・ふれあいバス・ふれあい予約バスの運賃体系と、バス維持に対する税負担のあり方についての町民意向を把握する。</p>
②	<p>・ふれあいバス(バス車両)の運賃をいくらまでなら支払ってもよいか</p> <p>【1. 50円 2. 100円(現在) 3. 200円 4. 300円 5. 400円】</p>	選択	
③	<p>・ふれあい予約バス(タクシー車両)の運賃をいくらまでなら支払ってもよいか</p> <p>【1. 100円 2. 200円(現在) 3. 300円 4. 400円 5. 500円】</p>	選択	
問 10	<p>・公共交通を確保・維持するために、自身や地域が協働・連携して取り組める内容</p> <p>【1. 公共交通を積極的に利用する 2. 地域で公共交通を活用したイベントを実施する 3. 地域で協賛金(募金など)を募り、収入を増やす 4. 地域企業の協賛金や広告費などを募り、収入を増やす 5. 地域で公共交通について話し合う場や組織を設置する 6. 地域が主体となり、地域特性やニーズに応じた新たな公共交通を運行する 7. その他( )】</p>	選択(全て)・記述	<p>住民連携の可能性についての住民意向を把握する。</p>
問 11	<p>・御嵩町内の公共交通の利便性を高めるアイデア</p>	自由記述	<p>御嵩町内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。</p>
コ ラ ム	<p>・御嵩町内を運行する公共交通の現状やこれまでの取組み施策の紹介</p>	-	<p>公共交通の周知</p>

## 2. 乗降調査

**調査目的：路線別、便別、停留所別の利用実態（OD）及び公共交通相互の乗継利用等を把握する**

	項目案	回答方式	調査項目のねらい
1	・お住まいの地域 【1. 上之郷地区 2. 御嵩地区 3. 中地区 4. 伏見地区】	選択	ふれあいバス・ふれあい予約バスの利用状況を把握する。
2	・年齢 【1. 20歳未満 2. 20・30歳代 3. 40・50歳代 4. 60～69歳 5. 70歳以上】	選択	
3	・利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院・お見舞い 4. アルバイト・パート 5. 買物 6. 飲食・娯楽 7. 観光・レクリエーション 8. 習い事・趣味 9. 訪問（知人宅等） 10. その他】	選択	
4	・最終目的地 【1. 御嵩町内 2. 御嵩町外】	選択	
5	・利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週に数回程度 3. 月に数回程度 4. 年に数回程度 5. 初めて利用する】	選択	
6	・乗り継ぎ状況・乗り継ぎ手段 【1. 名鉄広見線 2. ふれあいバス（バス車両） 3. ふれあい予約バス（タクシー車両） 4. YAOバス 5. 可児市さつきバス 6. タクシー 7. その他】	選択	乗継や往復利用といった利用特性を把握する。
7	・往復利用状況 【1. 往復の利用 2. 片道の利用】	選択	
8	・性別 【1. 男性 2. 女性】	調査員が記入	基礎データとして使用する。
9	・利用路線と利用便（調査員の記録） 【（ ）線 （ ）便】	調査員が記入	乗降バス停を把握し、バス停間ODを把握する。
10	・乗降バス停（調査員の記録） 【乗車：（ ）バス停 降車：（ ）バス停】	調査員が記入	

※乗降調査カード（ミシン目入り）を調査員が車内にて配布、利用者が該当箇所をパンチ（性別、バス停間ODは調査員が記入）ふれあい予約バスは車内に設置し、運転手が声掛けして回収。

※OD調査とは、起点（Origin）から終点（Destination）までを一体として把握する交通量調査のこと。

### 3. 利用者アンケート

調査目的：公共交通の満足度、改善事項、利用促進のアイデアなどを把握する

	項目案	回答方式	調査項目のねらい
問 1 ①	・性別 【1. 男性 2. 女性】	選択	以降の回答結果について、属性別の分析をする上での基礎データとして使用する。
②	・年齢 【1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60～64歳 7. 65～69歳 8. 70～74歳 9. 75歳以上】	選択	
③	・職業 【1. 会社員、公務員、会社役員等 2. 自営業（農業を含む） 3. パート・アルバイト 4. 専業主婦・主夫 5. 学生（専門学生を含む） 6. 無職 7. その他（ ）】	選択・記述	
④	・お住まいの地域 【1. 上之郷地区 2. 御嵩地区 3. 中地区 4. 伏見地区 5. 御嵩町外（ ）】	選択・記述	
⑤	・自家用車（送迎を含む）の利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 週に2～3回程度 3. 週に1回程度 4. 月に数回程度 5. ほとんど利用していない 6. 全く利用していない】	選択	自家用車利用（送迎も含む）への依存度を把握する。 不満事項の改善による利用頻度の増加の可能性を分析する際の参考データとする。
問 2 ①	・アンケートを受け取った路線 【1. ふれあいバス みたけ・なか線 2. ふれあいバス 工業団地・南山台線 3. ふれあい予約バス 伏見線 4. ふれあい予約バス かみのごう線】	選択	バスの利用状況を把握する。 満足度と利用状況のクロス集計により、路線別や利用状況別の満足度や改善事項を分析する。
②	・アンケートを受け取ったバス 【午前・午後（ ）時頃乗車 乗車バス停（ ）降車バス停（ ）】	記述	
③	・アンケートを受け取った当日のバスの利用目的 【1. 通勤 2. 通学 3. 通院・お見舞い 4. アルバイト・パート 5. 買物 6. 飲食・娯楽 7. 観光・レクリエーション 8. 習い事・趣味 9. 訪問（知人宅等） 10. その他（ ）】	選択・記述	
④	・アンケートを受け取った当日の最終目的地 【1. 御嵩町内：施設名（ ） 2. 可児市：施設名（ ） 3. 八百津町：施設名（ ） 4. その他市町：（ ）市・町】	選択・記述	
⑤	・利用頻度 【1. ほぼ毎日 2. 平日のみ 3. 休日のみ 4. 週に数日 5. 月に数日 6. 年に数日】	選択	
⑥	・運賃の支払方法 【1. 現金 2. 回数券 3. 乗継券 4. 定期券】	選択	
⑦	・アンケートを受け取った交通機関から他の交通機関へ乗り継いだか、または、アンケートを受け取った交通機関へ乗り継いだか 【1. 乗り継いでいない 2. 名鉄広見線 3. ふれあいバス（バス車両） 4. ふれあい予約バス（タクシー車両） 5. YAOバス 6. 可児市さつきバス 7. タクシー 8. その他（ ）】	選択・記述	乗継の利用状況について把握する。理由、代替手段を集計し、それぞれのサービスの連携についての検討材料とする。
⑧	・「行き」「帰り」と往復で同じ交通機関を利用したか 【1. 行きのみ利用 2. 帰りのみ利用 3. 往復で利用する】	選択	
⑨	（※片道利用者（⑩で「1, 2」と回答された方）のみ） ・「行き」または「帰り」のみ利用した場合、その理由 【1. 本数が少ないから 2. 利用したい時間と合わないから 3. 行きたい場所にいけないから 4. 遠回りになるから 5. 乗り継ぎが不便だから 6. 他の交通手段の方が便利だから 7. 車で送迎してもらえらるから 8. その他（ ）】	選択・記述	

	項目案	回答方式	調査項目のねらい
⑩	<p>(※片道利用者(⑩で「1, 2」と回答された方)のみ)</p> <p>・「行き」または「帰り」のみ利用した場合、代わりの交通手段</p> <p>【1. 名鉄広見線 2. ふれあいバス(バス車両) 3. ふれあい予約バス(タクシー車両) 4. YAOバス 5. 可児市さつきバス 6. タクシー 7. 自家用車(自分で運転) 8. 自家用車(送迎) 9. 原付・バイク 10. 自転車 11. 徒歩 12. その他( )】</p>	選択・記述	乗継の利用状況について把握する。理由、代替手段を集計し、それぞれのサービスの連携についての検討材料とする。
問 3 ①	<p>・ふれあいバス・ふれあい予約バスに関する現状の満足度と重要度 (項目ごとに満足度と重要度を評価【1. 満足 2. ほぼ満足 3. やや不満 4. 不満】 【1. 重要 2. やや重要 3. あまり重要ではない 4. 重要ではない】)</p> <p>① 総合的な満足度 ② 運行本数 ③ 運行経路 ④ 自宅からバス停までの距離 ⑤ 降車バス停から目的地・施設までの距離 ⑥ バスが運行している時間帯 ⑦ 目的地までの所要時間 ⑧ バスが時刻表どおりに発着すること ⑨ バス停での行き先案内や時刻表の見やすさ ⑩ バス停の待合環境 ⑪ バス停の施設整備 ⑫ バスの乗り降りのしやすさ ⑬ バスの運賃 ⑭ 車内における案内表示のわかりやすさ ⑮ 手持ちの路線図や時刻表の見やすさ ⑯ 乗り継ぎの情報や乗り継ぎ案内のわかりやすさ ⑰ 乗り継ぎをする際の移動距離 ⑱ 乗り継ぐバス停の待合環境 ⑲ 乗り継ぎの際の割引制度 ⑳ ふれあい予約バスの予約方法(利用者のみ) ㉑ ふれあい予約バスの予約締め切り時間(利用者のみ)</p> <p>(※不満足向者(「3, 4」と回答された方)のみ)</p> <p>・「やや不満」または「不満」と回答された項目の具体的な改善内容 【選択肢、部分記述】</p>	選択・記述	バスに関する項目別満足度を把握する。路線別や利用状況別の分析により、属性別の改善すべき事項を抽出する。不満事項を抽出し、回答結果を参考に改善策を検討する。
②	<p>(※不満足向者(①で「3, 4」を1つ以上選んだ方)のみ)</p> <p>・不満の項目が改善された場合、利用頻度が増加するか 【1. 今まで以上に利用する 2. 今までと同程度利用する】</p>	選択	不満事項の改善による利用頻度増加の可能性を把握する。
③	<p>・今後、バスサービスの維持・拡充をしていく際に重要な項目はどれか (①の②～㉑の中から選択) 【1位( ) 2位( ) 3位( )】</p>	選択 (上位3つ)	住民が公共交通に対して求めているものを調査し、今後サービス内容を変更する際の参考とする。
問 4 ①	<p>・名鉄広見線の収支は、年間2億円を超える赤字で推移していますが、地域にとって必要な社会インフラであることから、御嵩町が年間7,000万円の支援を行っています。また、利用者一人当たりふれあいバスは年間約1,170円、ふれあい予約バスは約1,020円の運行経費がかかっており、その内、町負担額はふれあいバス約1,080円、ふれあい予約バス約850円となっています。(平成30年度の町負担額は、ふれあいバス約1,620万円、ふれあい予約バス約760万円)この額は年々増加しており、今後も増え続けていく可能性があります。このことを踏まえて問4にご回答ください。</p> <p>・「運賃」や「税金での負担」の関係についての考え方</p> <p>【1. 運行本数の増加など、今以上の利便性を高めるため、町の負担額を増やすべき(税金の負担を増やして、サービスを向上させる) 2. 運行本数の増加など、利便性の向上は必要だが、利用者負担(運賃)の増加により対応すべき(利用者の負担を増やして、サービスを向上させる) 3. 現在の運行本数や運賃を維持するため、町の負担額は現状程度が良い(税金の負担は現状のままで、サービスも現状維持) 4. 運賃を上げたり、運行本数を減らしたり、サービス水準を落として町の負担額を減らすべき(税金の負担を減らして、サービスを低下させてもよい) 5. その他( )】</p>	選択・記述	ふれあいバス・ふれあい予約バスの運賃体系と、バス維持に対する税負担のあり方についての利用者意向を把握する。

	項目案	回答方式	調査項目のねらい
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいバス（バス車両）の運賃をいくらまでなら支払ってもよいか</li> <li>【1. 50円 2. 100円（現在） 3. 200円 4. 300円 5. 400円】</li> </ul>	選択	ふれあいバス・ふれあい予約バスの運賃体系と、バス維持に対する税負担のあり方についての利用者意向を把握する。
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい予約バス（タクシー車両）の運賃をいくらまでなら支払ってもよいか</li> <li>【1. 100円 2. 200円（現在） 3. 300円 4. 400円 5. 500円】</li> </ul>	選択	
問5	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスに期待する役割のうち、今後、サービスを維持・拡充していく際に重要な項目</li> <li>【1. 通勤・通学するための交通手段 2. 通院・買い物するための交通手段 3. 他の鉄道駅や広見線の駅へ行くための交通手段 4. 町外の施設へ行くための交通手段 5. 町外から来訪する方にとっての交通手段 6. 観光をするときの交通手段 7. 自動車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段 8. 普段は公共交通を利用していないが、いつでも利用できる安心感を与える役割 9. 存在自体が、まちの活性化や活力につながるという役割 10. 御嵩町をアピールする資源となる役割】</li> </ul>	選択 (1~3位を 順位付け)	ふれあいバス・ふれあい予約バスが果たすべき役割を把握する。 地域公共交通網形成計画に基づく推進事業を検討する素地とする。
問6	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通を確保・維持するために、自身や地域が協働・連携して取り組める内容</li> <li>【1. 公共交通を積極的に利用する 2. 地域で公共交通を活用したイベントを実施する 3. 地域で協賛金（募金など）を募り、収入を増やす 4. 地域企業の協賛金や広告費などを募り、収入を増やす 5. 地域で公共交通について話し合う場や組織を設置する 6. 地域が主体となり、地域特性やニーズに応じた新たな公共交通を運行する 7. その他（_____）】</li> </ul>	選択・記述	住民協働の可能性についての住民意向を把握する。
問7	<ul style="list-style-type: none"> <li>御嵩町内の公共交通の利便性を高めるアイデア</li> </ul>	自由記述	御嵩町内の公共交通の利便性を高めるためのアイデアを募る。
コラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>御嵩町内を運行する公共交通の現状やこれまでの取組み施策の紹介</li> </ul>	—	公共交通の周知